

漆芸美術館だより



高名秀人光《珊瑚》改組新第6回日展／松原弘明《彫漆盛器「早春」》第38回日本伝統漆芸展【文部科学大臣賞】（いずれも部分）

91

展覧会紹介：「第38回 日本伝統漆芸展」

展覧会紹介：「第26回 飛翔する輪島の漆芸作家たち—全国展入選作品—」

石川県輪島漆芸美術館友の会 日帰り見学会 実施報告

ミュージアムショップからのお知らせ

おうちでうるしミュージアム更新情報 ほか

2021年1月12日発行

「第38回 日本伝統漆芸展」

会期 2021年1月30日(土)～2月22日(月) *最終日は午後4時閉館

覧いただければ幸いです。(福江里美)

日本を代表する工芸として、永い歴史をもつ漆芸。日本伝統漆芸展は伝統の継承とその練磨、現代への応用を目指して毎年開かれています。第38回を迎える今年度は、受賞作8点を含めた87点を展示いたします。

文部科学大臣賞を受賞した松原弘明氏の《彫漆盛器「早春」》(表紙・写真1)は、春先に愛らしい花を咲かせる雪割草のモチーフで八角形の器の縁を飾った作品です。サーモンピンクから白の彩漆を十数段階の濃淡で塗り重ね、グラデーシヨンの花卉や斑入りの葉を彫り、高い技術力によって多彩な表現を行っています。磨き仕上げた光沢面と素彫のマットな面の対比も効果的で、長い冬を常緑のまま耐え忍んだ雪割草の力強さと、春の訪れを喜ぶ可憐な姿が感じられます。

奨励賞 石川県輪島漆芸美術館賞を受賞した荒川文彦氏の《乾漆線文箱「暁光」》(写真2)は、陽が昇ろうとする時、山際が朝焼けで紅く染まり、光輝く空の美しさを表現した作品です。中央の帯の部分には朱漆と黒漆の暈しの効果によって朝日の差し込みを強く印象づけ、3本の象嵌の銀線が陽の光を際立たせています。漆の塗り肌の質感の違いと銀線のみで情景が端的に表現されており、雲海の広がりをも感じさせる作品です。



(写真1) 松原弘明《彫漆盛器「早春」》
【文部科学大臣賞】



(写真2) 荒川文彦氏《乾漆線文箱「暁光」》
【奨励賞 石川県輪島漆芸美術館賞】



(写真3) 松本真奈《乾漆螺鈿盛器「波光」》
【日本伝統漆芸展新人賞】

日本伝統漆芸展新人賞を受賞した松本真奈氏の《乾漆螺鈿盛器「波光」》(写真3)は、波をモチーフに乾漆技法で制作された作品です。優しい光を放つ泡の輝きは、プラチナ箔で伏彩色を施した白螺貝によるものです。外側の波形には刻苧、内側には砥の粉錆と、異なる素材の使用によって造形に工夫が凝らされています。桐擦りを念入りに行うことで、器の黒色には吸いこまれそうな透明感が生まれています。

重鎮から新進までがしのぎを削り、高い技術と芸術性を示し続ける本展覧会は、後継者の育成にも大きな役割を果たしてきました。日本の漆芸界を牽引する輪島での開催を通して、多くの方にこ

列品解説のご案内

会期中下記出品者による展示作品の解説を行います。

1月31日(日) 大角裕二氏(鑑査委員)

2月7日(日) 山岸一男氏

(重要無形文化財保持者)

2月14日(日) 中野孝一氏

(重要無形文化財保持者、審査・鑑査委員)

2月21日(日) 西 勝廣氏(特待者)

いずれも午後1時30分開始 *入館券が必要です

「第26回 飛翔する輪島の漆芸作家たち―全国展入選作品―」

会期 2021年3月9日(火)～5月10日(月)

全国規模で行われる公募展への参加は、輪島漆芸の発展の基盤をつくりました。日展や日本伝統工芸展をはじめとする展覧会は現在も引き続き、輪島で活動する多くの漆芸作家たちにとって研鑽の発表の舞台となり、重鎮から気鋭まで、彼らによる競演が繰り広げられています。

本展覧会では輪島の漆芸作家たちによる、全国公募展における令和元年度の入選並びに特別出品作を一堂に紹介します。ここでは、漆芸美術品を鑑賞するにあたって注目すべきポイントをお伝えしながら、作品について解説しましょう。

【形・塗り】玉縁のついた口縁に12の稜を設け、深い立ち上がりの下方へ向かうに従い鑄はゆるやかにになります。視線を移すごとに様々な表情が発見できる《乾漆器》(写真1)の形には、力強さと包み込むようなやわらかさが同居しています。塩多淳次氏は乾漆技法を用いてこの形状を造り出しました。乾漆は型に麻布を漆で貼り重ね、型を外して漆塗りの土台とする技法ですが、その粘土原型の段階では、形を手で確かめつつ、細部に渡り調整を加えることができます。そうして生まれた形を引き立てるのが塗りの技法です。朱の漆が鈍く光を反射し、形の変化を穏やかに伝えます。これは漆刷毛で漆を塗り、研磨することなく仕上げ塗立(花塗とも称する)によるものです。刷

毛目や塵を残さず滑らかに仕上げるには高度な技術が要求されるのです。

【蒔絵・多様な素材】高名秀人光氏の《珊華》(表紙・写真2)は消えゆくサンゴ礁を題材にした作品です。白化しつつあるサンゴ礁から、サヨリの群れが一斉に飛び出したかのような瞬間を描いています。サンゴは蒔絵の点描によって描かれ、その粗密によって立体感が与えられています。ここで用いられているのは金粉と銀粉、そして乾漆粉です。乾漆粉は練り合わせた彩漆をガラス板に塗り付け、固化のち水に浸けてはがし、薬研で挽いて準備します。思い通りの色合いに調合するため、作者は自らこれらの作業を行いました。さら

に、粉の粗さの違いによって発色を変化させるため、粒子の大きさが異なる乾漆粉を使用しています。

サヨリはこれらの背景を研ぎ出したのちに蒔絵で上から描かれたり、シルエットのみが描き抜かれることで強調され、滑り出るような動きを想像させます。同時に数多の気泡が噴き出したのでしょうか。貝や金属の薄板も丸く切り抜き貼り付けられています。遙か水面から届く光が揺れるのは、海の再生への祈りの象徴かもしれません。会派を越えた作品の数々や、各作家の得意とする素材や技法の違いを堪能できるのも本展覧会ならではの。ぜひお運びください。(寺尾藍子)



(写真1) 塩多淳次《乾漆器》
2019年第66回日本伝統工芸展



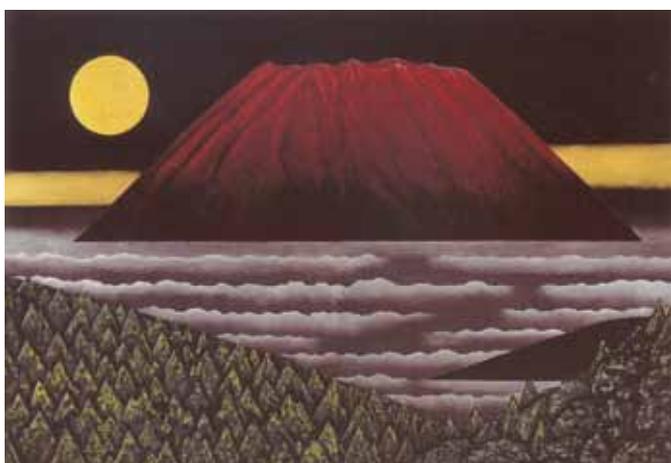
(写真2) 高名秀人光《珊華》
2019年改組新第6回日展

日本芸術院会員

伊藤裕司氏より

作品の寄贈を

受けました



日本芸術院会員伊藤裕司氏作《赤富士》(2015年改組新第2回日展)が作者ご本人から寄贈を受け、2020年12月7日、当館に収蔵されました。

伊藤氏は1930(昭和5)年京都市に生まれ、1953(昭和28)年に京都市立美術工芸学校漆芸科を卒業のち山崎覚太郎に師事し、彩漆による多彩な表現技法の追求を重ねました。同年には日展に初入選し、1966(昭和41)年、1968(昭和43)年に特選を受けます。また、1970(昭和45)年に京都にて鈴木雅也らとともに若手の漆芸作家によるグループ「フォルメ」を結成し、約10年にわたって前衛運動を展開しました。2004(平成16)年には第35回日展出品作《スサノオ聚抄》で日本芸術院賞を受賞。2011(平成23)年、日本芸術院会員に就任し、現在も日展や現代工芸美術展覧会等で活動されています。

《赤富士》は大自然が人知れず見せる威容を描いたものです。深い樹海の先に一面の雲の波が広がり、漆黒の空に浮かぶ月はあたりが静寂に包まれていることを物語ります。雲海

を突き破りそびえる頂きは暗褐色から次第に燃えるような朱に転じ、朝日の到来に神々しく呼応します。日本で生活する人々の多くが心に「富士」のイメージを抱き、慣れ親しまれたモチーフである一方、本作からは測り知ることのできない超越的な力を感じさせます。

注目すべきは、明快な構成に用いられた、彩漆による重厚な表現です。富士の山容、前景の樹林の連なりは、高上げ技法によってレリーフ状としていきます。多色を塗り重ね研ぎ出してできた有機的な味わいが、レリーフの起伏にそのまま表された山肌の険しさと一体になっています。

こうした漆芸による大画面への挑戦に、官展を舞台としていち早く取り組み、今日の漆芸における平面表現の礎を築いたのが伊藤氏の師である山崎覚太郎でした。これまで、鏝漆や絞漆、乾漆粉の併用など、制作活動を通じた研究の深化がこの発展を支え続けています。現代の表現もその道程にあるといえるのでしよう。

今後の展示でご覧に入れる機会をぜひ楽しみにお待ちしております。

2021年当館は
開館30周年を迎えます

年が明け、1991年9月に開館した石川県輪島漆芸美術館は開館30周年を迎えます。来年度は記念特別展をはじめ、様々な催しを企画いたしております。皆様に喜んでいただけるよう、職員一同努力を重ねてまいります。どうぞお楽しみに！

友の会日帰り見学会 実施報告

令和2年11月18日、当館友の会による日帰り見学会を実施しました。

同年10月にオープンしたばかりの国立工芸館を行程に加えました。

予想以上の参加希望があり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2班に分かれてバス移動および見学を行いました。

たくさんのご参加、誠にありがとうございました。

「見学先」

国立工芸館

谷口吉郎・吉生記念金沢建築館

(いずれも金沢市内)



ミュージアムショップからのお知らせ





2021.
1 / 30 [SAT]
販売開始

石川県輪島漆芸美術館ミュージアムショップ発、当館公式キャラクターわんじまのオリジナル新商品が販売されます！

今回は、非接触ドアオープナー、

トランプ、マスクケースのラインナップです。販売は1月30日から予定しています。

どうぞお楽しみに！

イベント情報 2021年1-3月

*予定は予告なく変更することがあります。詳しくはホームページをご覧ください。

- 輪島市内小学6年生の沈金作品
「メモリアルパネル展」
- 市内保育所(園)・幼稚園年長児のぬりえ作品
「鬼わんじまぬりえ展2021」

1月30日(土)～2月7日(日)
会場：講義室 *入場無料

- 輪島あへの風冬まつり協賛 数量限定!
わんじまチロルチョコプレゼント

2月13日(土)・14日(日)
*要入館料 各日先着60名様にプレゼント

- 輪島塗技術保存会
伝承者養成事業成果発表展

3月12日(金)～15日(月)
会場：講義室 *入場無料

今後の展覧会 2021年1-3月

- 第38回 日本伝統漆芸展

1月30日(土)～2月22日(月)

- 第26回 飛翔する輪島の漆芸作家たち
全国展入選作品

- 總持寺祖院伝来の名宝展

大本山總持寺開創700年を記念し、總持寺祖院伝来の
絵画、工芸品を展示します。

3月9日(火)～5月10日(月)

休館日のご案内

- 1月18日(月)～1月29日(金)
- 2月23日(火・祝)～3月8日(月)
- 5月11日(火)～5月20日(木)

#おうちでうるしミュージアム 更新情報

当館ホームページ内「おうちでうるしミュージアム」では選りすぐりのコレクションを紹介する動画を随時更新中です。「わんじま 漆芸美術館」のYouTubeチャンネルもチェックして、ぜひチャンネル登録をお願いします！

全国のおうちミュージアムを楽しみましょう！

TwitterやFacebookで #おうちミュージアム を検索。日本全国の美術館・博物館が参加するウェブコンテンツをお楽しみいただけます。 #おうちミュージアムへ初詣 もチェック！

■INSIDE INSIDE

わんじまと一緒に、知られざる作品の内側をご紹介します。



■ズームインクイズ

作品にぐーんと近づいて、わんじまが出題するクイズに挑戦しましょう。



おうちでうるしミュージアム



わんじま YouTubeチャンネル

漆芸美術館だより No.91

2021年1月12日発行

編集・発行／石川県輪島漆芸美術館

〒928-0063 石川県輪島市水守町四十苅11番地

TEL0768-22-9788 FAX0768-22-9789

<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>

